

# 幼児教育学科における英語教育実践

鯨坂 はるよ\*

## An English Educational Practice in Department of Early Childhood Education

Haruyo Ajisaka

---

【キーワード】 英語教育, 実践, 幼児教育学科

English education, practice, department of early childhood education

### 1. はじめに

幼稚園教諭二種免許状では外国語が必修科目であり、本学では英語、中国語は共通科目で、英語、中国語のいずれかが選択必修科目である。

現在、幼稚園では希望者に英語を学ぶ時間を設けるところも多い。学習指導要領に2020年度以降、小学校3、4年生から外国語活動の授業時数を35時間（1単位時間は45分）実施するということが2017年3月に公示<sup>1)</sup>され、これから増々、英語を子どもに学ばせたいという保護者の思いは強くなり、対応する幼稚園は増えていくであろう。

幼稚園ではネイティブの先生が中心に英語の歌や遊びを盛り込んだ授業を行い、日本人教諭がその補助に入る等が多いようだが、日本人の幼稚園教諭が任されることもあるようで、そのような内容に対応できるように、本学の英語の授業内容も行ってほしいという学生からの要望もある。

また筆者自身、大学に入学した際に、一般教養科目も入学した学科の専門科目内容に関係ある内容にしてほしいと考えていた。また、昨年度報告した「大阪の短期大学の英語教育と学生充足率について」<sup>2)</sup>の中でも、学科の専門科目内容に近い一般教育の英語内容の授業を行っている短期大学の学生充足率は高く、学生の満足度は高いと予測できる。

以上のことを鑑み、筆者担当の幼児教育科英語科目では、幼児教育学科の専門科目内容に近い内容で、幼稚園、保育園、こども園で勤務する際に役立ち、学生が関心を持ち、主体的に英

---

所属および連絡先

\* 大阪千代田短期大学

語を学習することになるよう心掛けている。

## 2. 教育実践方法

本稿では、「大阪の短期大学の英語教育と学生充足率について」で昨年度報告したように、学科の専門科目内容に近い一般教育の英語内容の授業を行っている短期大学の学生充足率は高く、学生の満足度は高いという結論も勘案し、授業計画を組み立てている。幼児教育学科の専門科目内容に近い英語教育を提供することで、学生が関心をもち、主体的に英語を学習するよう、そして卒業後、幼稚園、保育園、こども園で勤務する際、役に立つよう授業内容を検討している。

筆者担当の幼児教育科英語科目の授業計画は、以下のようなものである。

表1 「英語 B」授業計画（2017年度）

第1回	授業の進め方、様々な海外の絵本、先輩の作成した英語絵本の紹介
第2回	英語の絵本 <i>Little Blue and Little Yellow</i> の作者を知る
第3回	<i>Little Blue and Little Yellow</i> の内容を理解する
第4回	英語絵本、イギリス民謡発祥の英語の手遊び
第5回	<i>Little Blue and Little Yellow</i> の作者が伝えたいこと
第6回	英語の絵本に出てくる遊びを学ぶ
第7回	英語の絵本に出てくる遊びを学び、体験する
第8回	幼稚園、保育園での英語
第9回	子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の背景を知る
第10回	子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の内容を理解する
第11回	アメリカ民謡発祥の英語の手遊び、英語の絵本のストーリーを考える
第12回	絵本のストーリーを英語にする
第13回	英語の絵本を作成する
第14回	作成した絵本の発表
第15回	作成した絵本の発表のふりかえり、まとめ、試験について

筆者担当の幼児教育科英語科目の最後の目標は学生が自分で英語の絵本を完成させ、最終授業でそれをクラスの皆の前で発表することである。授業の第1回目は、外国の様々な絵本、布で作成された外国の絵本、外国の仕掛け絵本等を紹介した後、先輩が作成した英語の絵本を紹介する。先輩の作品を見せると、学生のモチベーションは一気に高まる。英語の絵本作成は難しいと感じる学生が少なくないのだが、先輩の作品を見せると、ほとんどの学生が自分も作ってみたいと思うようである。先輩の作品は、ストーリーをよく考えた絵本、仕掛け絵本、布で作成した絵本など様々である。

最初から絵本作成に取り組むことは難しいため、外国の英語の絵本を読みながら、自分が作成する絵本内容を検討する。その後、その絵本に記載されている英語圏の遊びや英語の手遊び、英語の子どもの歌等を学習する。

授業を重ねるうち、学生からの要望があった英語圏の子どもに対応する幼稚園、保育園での会話も学習している。

本稿では、この授業計画の順を追って検討していく。

### 3. 教育実践

#### 3-1. *Little Blue and Little Yellow* を用いた授業の工夫

最初から絵本作成に取り組むことは難しいため、「レオ・レオーニの二十数冊の絵本作品の中で、最高の傑作である」と松居（2001：44）が述べ、日本でも良い絵本と紹介されている *Little Blue and Little Yellow* を読む。日本では『あおくときいろちゃん』という作品名で発売されており、幼稚園や保育園でよく読まれている絵本でもある。Leo Lionni は、*Swimmy* という絵本でよく知られている絵本作家である。

日本では、『あおくときいろちゃん』と訳され発売されているが、題名の *Little Blue and Little Yellow* からわかるように、どちらが男の子で、どちらが女の子というのはわからない。しかし日本では、little blue は男の子、little yellow は女の子とされ、あおくときいろちゃんと訳されている。この点も、授業時に指摘している。日本語版の『あおくときいろちゃん』を読んだことがある学生は、little blue は男の子、little yellow は女の子と決まっている訳ではないと知ると驚く。また、『あおくときいろちゃん』を読んだことがある、ないに拘らず、little blue は男の子、little yellow は女の子と思いたい学生が多いのは、興味深い。

学生には、ただ英語を日本語に訳す、英語の文法を学ぶ、Listening、Speaking を学ぶというだけではなく、作者の人生経験や思いが絵本に表れていること、絵の形、構図、背景等もよく考えられた絵本だということについても解説しながら、読んでいく。将来、幼稚園、保育園、こども園の教諭となり、絵本の読み聞かせを行う立場になる学生には、絵本を深く学んでほしいと思うからである。

*Little Blue and Little Yellow* は、登場人物に顔、手、足がなく、単なる色のついたまるであるが、それが重要である。もちろん、little blue と little yellow が再会し、嬉しさの余り little blue と little yellow が抱き合い、緑色になるためには、青色と黄色であることも重要である。それに加えて、little blue と little yellow、papa や mama や他の登場人物全員の顔が描かれていないことも重要である。これは読む子どもが、little blue と little yellow、papa や mama の顔や表情を自分で想像して作り上げられるようになっている。子どもたちの想像力を育む絵本となっているのである。

*Little Blue and Little Yellow* の最初の場面について、松居（2001：44-45）は「大きくもなく小さくもない正方形のまっ白な空間は、そのままでも張りつめた純粹さが感じられ…小

さな青は、正方形の空間の中心に位置し、この中心性を強調したデザインが、よりいっそう画面の緊張度をたかめ、みる者の視線と気持ちを『あおくん』の存在に集中させます」と述べている。これは、初めて頁をめくる人に、little blue が主人公であると印象付けているのである。「作者 (Leo Lionni) は、“人間同士の重要な関係というのは前面对前面だ”と語っていますが、この『あおくん』は、読者に真正面から向き合っているようで、作者が大切にしている フロントリティー 前 面 性 がみごとにデザイン化されています。この絵本の中で最高の出来はこの頁だ、と作者自身いい切っているのも納得のゆく、すばらしい導入の仕方」と松居 (2001: 44-45) は述べている。

次に、little blue の卵型の家が紹介され、背が低くふっくらしたまると細長い背の高いまるで papa と mama が示される。ここで、どちらのまるが papa で、mama なのか、学生に考えさせている。どちらが papa でも mama でもよいのだが、昔の学生は背の低いふっくらとしたまるが mama で、細長い背の高いまるが papa と感じる学生が多かったが、最近は逆転し、背の低いふっくらとしたまるが papa で、細長い背の高いまるが mama という学生が多いのは時代の変化を感じられ、興味深い。この頁ではこのように、読み聞かせをする際、どちらが mama で、どちらが papa なのか、子どもたちに聞いてみてもおもしろいのではないかと学生に述べている。子どもたちに聞くことにより、子どもたちは、自分の好きな little blue の papa や mama を思い浮かべることだろう。

papa と mama を紹介した後、“Little blue has many friends” (Leo Lionni 1995: 9) とあり、“many” の表現方法が興味深い。「画面には六個の色違いのまるが不規則にぼんぼんと配置されています。この無作為な置き方が『たくさん』を象徴します。もしなにかの秩序や法則めいたものを感じさせるような図柄になりますと、“六個”が意識されてしまうでしょう。『たくさん』だから、もっとまるをたくさん描けばよいという考え方もできますが、それでは左右の頁のデザインが均衡を失って、美しさが失われ」と松居 (2001: 45-46) は述べている。“many” を表現するために、まるをたくさん描かず、故意に不規則とし、絵本の白い背景外の描かれていないところにもっとたくさん友だちがいるかもしれないと想像する子どもも存在するかもしれない。また、6個でたくさんをイメージする子どもも存在するかもしれない。読む子どもが自分にとってのたくさんを自分で決めることができるのである。この箇所もよく構図が考えられている作品であり、指摘しないと学生は気づかない。

“How they love to play at Hide-and-Seek” (Leo Lionni 1995: 12) という記述の頁の絵では、little blue と little yellow がかくれんぼで遊んでいるところが描かれているが、これも構図がよく考えられて描かれている。little blue から皆が離れ、黒い物陰に隠れており、little blue が鬼だと想像される。黒い形のものも、はっきり何か描かれていないので、木であるのか、壁なのか、草むらなのか、子どもが自由に想像できるようになっている。

"In school they sit still in neat rows." (Leo Lionni 1995 : 14) という記述の頁の絵は、「この絵本のなかで唯一、幾何学的な線と形で教室が表現され、子どもたち規則正しく整列しておりまさに管理や秩序を象徴しているかのようで」と、松居 (2001 : 46) は指摘している。他の絵とは違い、教室、学校を表わしていると思われる黒い四角は、定規で書かれたような線で描かれ、little blue や little yellow が、その黒い四角の中で整列している。この絵を見せて、学生に作者は学校のことをどう思っているのかと問うと、学生は「作者は学校が嫌いだったと思う」と答える。"In school they sit still in neat rows." の隣の頁は、"After school they run and jump." (Leo Lionni 1995 : 15) とあり、青色と黄色の色を含む5つのまるが不規則に並び、とんだり、はねたりしている姿が想像される。右頁の規則的な構図と左頁の不規則な構図の対比が面白い。松居 (2001 : 47) も「一列横並びになったのでは、『とんだり はねたり』という子どもの解放感と躍動感はできません。ついたり離れたりして、楽しく帰ってゆくイメージがさりげなく生かされています。」と述べている。

"One day mama blue went shopping. 'You stay home' she said to little blue." (Leo Lionni 1995 : 16) という記述の頁の絵では、卵型の little blue の家の中心に青いまるを配置し、little blue が一人ぼつんと家に残されたことを表現している。また、little blue の mama の姿を全て描くのではなく mama の体後ろ半分を描き、また mama の背の部分に斜めに倒して描き、この構図から mama が急いで買い物に行った様子が読みとれる。

little blue は、留守番をするように mama から言われたが、little yellow を探しに行ってしまう。"But little blue went out to look for little yellow." (Leo Lionni 1995 : 17) という記述の頁の絵は、卵型の little blue の家から出ていく絵が描かれているのだが、その構図は卵型の家と little blue は離れず、密着し、little blue の背は傾いている。この構図は、子どもの little blue が大人のように素早く家から出られず、玄関で家の壁に手をつけて靴のところに降り、座って靴を履き、玄関で手をつけて立ち上がっている子どもの姿が目につく。

little blue は、little yellow を探すが見つからない。"He looked here" (Leo Lionni 1995 : 17) の頁は、今まで通り白い背景で、little blue は右上に描かれている。しかし、次の頁を開くと、左の頁の背景は真黒で、右の頁の背景は真赤である。左の頁には、"and there" (Leo Lionni 1995 : 20) と書かれていて、little blue が描かれている位置は右下である。右の頁には、"and everywhere...until suddenly, around a corner" (Leo Lionni 1995 : 21) と書かれていて、little blue が描かれている位置は右端中央である。「黒と赤の頁も、その時々『あおくん』の気持ちの変化を暗示」していると松居 (2001 : 47) は述べており、little yellow が見つからない不安、寂しさ等を表現している。また、little blue の位置が、右上から右下に移動し、最後は右端中央に描き、little yellow を必死で探し回っている little blue の姿をその構図により示している。

"there was little yellow!" (Leo Lionni 1995 : 22) と little blue は叫び、little yellow を発見する。その場面の構図も little blue が左に配置されているのだが、青のまるは全部描かれず、三分の二しか描かれていない。これは、little yellow を見つけ、little yellow に駆け寄る姿を描くために、青のまるを三分の二しか描かず、走っている姿を表現しているのである。

そして、二人は "Happily they hugged each other" (Leo Lionni 1995 : 23) と記述がある頁で、抱き合うと緑色になるのである。この箇所については、「抽象的な青色と黄色であればこそ、嬉しい気持ちが重なってだんだん緑になってゆくという心理的な効果が、視覚的に巧みに表現されます。これがもし、写実的な描き方の人物で表現されていれば、ここはまったく絵にならず、このような意表を衝いた独創的な物語展開は成立しません。」と松居 (2001 : 47) は指摘している。

緑となった二人は、遊びまわり、"When they were tired they went home" (Leo Lionni 1995 : 30-31) という表現通り、家に帰るのだが、この頁は見開きとなっており、左の頁が "When they were tired" と書かれて、左下に少し平たく描かれた緑のまるが描かれており、疲れてしゃがみ込んでいる姿を表現している。右の頁は "they went home" と書かれていて、緑のまるは右端中央に移動し、緑のまるの背中は少し丸まり、前方に倒れていて、疲れて座り込んでいたが、立ち上がり、疲れて元気のない足取りで歩く姿を表現している。また、左の頁では、緑のまるは左端、右の頁では右端中央に移動し、左右の頁で緑のまるの動きを表しているのである。

二人は little blue の家に帰っても、"You are not our little blue - you are green." (Leo Lionni 1995 : 32) と little blue の papa、mama に言われ、little blue の家に入れてもらえない。その後、little yellow の家に行っても、"You are not our little yellow - you are green." (Leo Lionni 1995 : 33) と little yellow の papa、mama に言われ、little yellow の家に入れてもらえない。この箇所は絵本には珍しく、親に拒絶される悲しい場面であり、学生は驚く。この箇所では必ずここで読むのを終え、この後二人はどうなるのか、学生に自由に想像してもらおう。絵本と同じということは求めない。学生の考える展開は様々で、「二人は緑として生きていき、緑の子どもも生まれる」「緑の親を見つけ、緑の親に育てられる」「二人は喧嘩をすると、青色と黄色に戻る」「坂から転げ落ち、青色と黄色に戻る」「二人は違う方向に体をひっぱると、青色と黄色に戻る」など想像するので、興味深い。1週間待たず、早く結末を知りたいがる学生もいる。親に拒絶される場面で授業が終わるため、不安になり、早く結末を知り、安心したいようである。1週間後、little blue、little yellow が元に戻り、papa や mama が二人を理解し、受け入れ、喜ぶ場面で多くの学生は安堵する。

1週間後、学生の考えた展開を紹介し、絵本ではどのような展開とのか読み進める。子どもに読み聞かせをする時も、1週間は長すぎるが、この箇所ではこの後どうなるか子どもに聞いて

みても面白いのではないかと提案している。

緑は涙を流し、全部涙となり、little blue と little yellow に戻る。little blue と little yellow は、それぞれの家に帰り、papa や mama は大喜びする。緑になった理由もわかり、little blue の papa、mama と little yellow の papa、mama が抱き合い、一部が緑となるのである。この青色、黄色から緑色になるということについて、松居（2001：48）は、「青と黄のそれぞれのちがいと、それがよるこびをとともにするとすばらしいことがおきるという体験は、“自分とはなにか” “どこが共通しているのか” といった、人間同士が理解しあう関係をときあかしてくれます。」と指摘している。「1938年イタリアではムッソリーニのもとで、悪名高き人種差別法が公布され、ファシストの嵐が吹きはじめる。秘密警察が横行し、ユダヤ系であったレオは、身の安全にも不安を覚えるようになってきた。さまざまな選択肢のなかから、レオはヨーロッパ脱出を計画し、オランダのロッテルダムから船に乗りアメリカにむかった。」と松岡（2013：84）は述べている。このような Leo Lionni の人生経験から、青色、黄色、緑色は肌の色を表し、人種を表していると思われる。まるもよく見ると、少し形が違う。これは、全く同じ顔、形の間人は存在しないということを表しているのではないか。

また、little blue と little yellow は、緑色になったことを即座に受け入れ、トンネルを走り抜けたり、山を登ったりして遊び出す。“They chased little orange.”（Leo Lionni 1995：28）とあるように little orange も緑になった二人を即座に受け入れ、遊び出す。このように緑色になった little blue と little yellow を他の子どもたちは即座に受け入れる。しかし、大人である papa や mama たちは、緑を拒絶する。これは、大人たちから始まる人種差別を表しているのではないか。そして最後に、子どもたちに教えられ、和解する。

また、little blue と little yellow が緑色になるところは、人間が協力すると違うなにかを生み出すことができるというメッセージもあるのではないか。

*Little Blue and Little Yellow* は作者の人生経験と思いが表れている絵本なのである。*Little Blue and Little Yellow* を読み終えると、「絵本の構図がよく考えられている」「日本にはない絵本で面白かった」「今までこの絵本にそれ程深い意味を感じなかったが、解説してもらい、作者の思いがよく表れている絵本だと思った」等の学生の感想があった。

このように、絵本を深く読むことで、学生が絵本を読む際に、絵本について深く考えてくれたら、嬉しいと考えている。英語を学んでほしいが、単に英語を学ぶのではなく、英語を通じて、専門に近い内容を学んでほしいと考えているのである。

### 3-2. "Ring-a-Ring O'Roses" の遊びの体験

*Little Blue and Little Yellow* を読み終えた後、*Little Blue and Little Yellow* に描かれている主人公たちが行っている遊び "Ring-a-Ring O'Roses" の歌詞の意味を知り、実際にそ

の遊びを体験する。この遊びを実際に、幼稚園でネイティブの先生が子どもたちと行っていたのを見たという学生もいる。

"Ring-a-Ring O'Roses" は、Mother Goose の歌の 1 つである。"Ring-a-Ring O'Roses" の 1 番は、「17 世紀にロンドンで大流行したペストに関係があるという説」（白川 2001 : 93）がある。"Ring-a-ring O'Roses" の 1 番の歌詞は以下のようなものである。

Ring-a-ring o'roses,  
A pocket full of posies,  
A-tishoo! A-tishoo!  
We all fall down. (白川 2001 : 93)

これを日本語に訳すと、「バラの輪を作ろうよ。花で一杯のポケット。ハックション！ハックション！ みんなは倒れた。」という意味となるのだが、意味を理解しがたい。

「ばら色の発疹はペストに感染した徴候であって、ポケットの花はペストを防ぐための薬草を表すというのです。くしゃみをするとう魂が飛び出すという迷信がありました。そこからくしゃみは死を象徴します。」と白川ら（2001: 93）は指摘している。最後に、"We all fall down." とあり、「みんな倒れて死ぬ」のである。以上を合わせると、「ペストの発疹をつくろうよ。ポケットにはたくさんのペストの薬草があったが、くしゃみが出て、魂が抜け、みんな死んでしまった」というような恐ろしい歌詞となる。この遊びは、*Little Blue and Little Yellow* の絵本にも登場し、英語圏でよく知られている子どもの遊びであり、Tom Cruise 主演の *Mission: Impossible 2* の最初の場面で、この遊びを行い、子どもたちが歌っているこの歌が流れ、平和な風景を表すために使われている。現在、子どもたちは、17 世紀ロンドンで流行したペストのことや、その際、多くの人々が亡くなったこと等知らないと思われるが、このような説もあると学生に紹介すると、学生は興味を示す。

"Ring-a-Ring O'Roses" の歌詞について学んだ後、実際にこの遊びを実践する。2 番の歌詞は以下のようなものである。

The cows are in the meadow,  
Lying down and sleeping,  
Thunder! Lightning!  
All jump up! (白川 2001 : 93)

"Ring-a-Ring O'Roses" の 1 番では、皆で 1 つの輪となって回り、"A-tishoo! A-tishoo!" で 2 回ジャンプし、"We all fall down." で皆倒れる。2 番の "The cows are in the meadow, / Lying down and sleeping," で牛が寝ている真似をして、"Thunder!" で座って手を叩き、



"Lightning!" で座ったまま両足で床を叩き、"All jump up!" で立ってジャンプする。

2回目からは、"The cows are in the meadow,/Lying down and sleeping," のところで、牛ではなく、他の動物や虫、飛行機等、真似するものを決めて、皆で真似をする遊びである。この遊びを実際に実践する。

### 3-3. 英語の手遊び

英語の手遊びもその手遊びの歌の英語を学んだ後、実践する。なるべく、学生に馴染みのあるものを取り上げている。

"Head, Shoulders, Knees and Toes" の手遊びは、日本では「あたま、かた、ひざ、ボン」でよく知られた手遊びであるが、これは「イギリスの民謡をもとに、アレンジされてきたあそび歌」(三省堂編修所 2001:37)である。英語のものと同曲も動きもほとんど同じだが、日本の「ボン」で手を叩く箇所が、英語版では "Toes" で、つま先に手を動かす。実践してみると感じることであるが、"Knees" (ひざ) からつま先に手を動かすのは、体全体を動かし、前屈もすることとなるので、かなりの運動量で、且つ音楽が早くなっていくため、最後は非常に疲れる。以上のことがあり、この遊びが日本に入ってくる際、"Toes" から「ぼん」と手を叩くことに変更されたのではないか。この点も学生に指摘している。学生は実践も行うため、この指摘に納得する。

"Under the Spreading Chestnut Tree" の手遊びも学んでいる。日本では「大きなくりの木の下で」知られているが、「日本では、振りつけとともに広く親しまれている曲ですが、もともとはアメリカ民謡のひとつです。」(三省堂編修所 2001:36-37)とあるように、アメリカ発祥の手遊びである。これも日本のものと英語版は動きが少し違う。日本の曲では「大きな」から歌が始まるので、「大きな」を表すポーズから始まるのだが、英語版は "Under" から始まるので、その歌詞に合わせ、手のひらを下に動かす。「大きな」の表現の仕方の違いも興味深い。日本語版では「大きな」の表現の仕方は、手を上に上げ、「大きな」を表すか、手を胸前に上げ両手で木の幹の太さを表現するのだが、英語版は「大きな」の表現にあたる英語が "spreading" で、木の幹が広がっている大きな木を表しているので、手の動きは体の中心から両手を左右に広げ、手を横に動かし、大きな木の幹の広がり表現している。英語版の "There we" のところは、手のひらを下に向けて、ペンギンのようなポーズをとり、"sit both" でひざを軽く曲げ、座るポーズをとる。日本語版では座るという歌詞もなく、このような動作はない。その他の動きは概ね同じである。このように日本語版と英語版の違いを指摘すると、学生は日本語版と英語版の違いを興味深く感じるようである。

"Little Peter Rabbit" の手遊びは、イギリスの作家 Beatrix Potter の作品 The tale of Peter Rabbit の主人公 Peter Rabbit を手遊びにしているのだが、この曲は、「日本では『ごんべき

んの赤ちゃん』のメロディーでおなじみの歌です」(白川 2001: 93) とあるように、学生もよく知っている曲である。現在では、ヨドバシカメラの CM ソングの方で有名かもしれない。"Little Peter Rabbit" という手遊びが日本に入ってくると「ごんべさんの赤ちゃん」と変化するところも興味深いと授業で指摘している。

### 3-4. 背景を学ぶ "Grandfather's Clock"

子どもの歌 "Grandfather's Clock" についても学んでいる。これは日本で「大きな古時計」として紹介されており、多くの人が日本の歌だと思っているが、アメリカの作曲家が作った歌である。曲に入る前に、「大きな古時計」の CD 発売も行った日本の歌手である平井堅が「大きな古時計」のルーツをたどる旅をしている NHK の「平井堅 楽園の彼方にーアメリカ・大きな古時計を探して」というドキュメンタリー番組を見る。この番組には、"Grandfather's Clock" のモデルとなったと言われる実在する時計も登場する。"Grandfather's Clock" を作ったアメリカの作曲家 Henry Clay Work の子孫が、モデルとなった時計を大切に保存し、家族代々受け継いでいるのだ。ヨーロッパからアメリカに移民してきた人たちにとって、大きな時計は富と成功を表す高価な貴重品で、代々家族で受け継ぐもの、家族の絆を表し、大きな時計は家族の象徴なのであると番組で述べられている。

"Grandfather's Clock" は悲しくせつない曲であるが、ただ歌詞が悲しいのではない。Henry Clay Work は、作曲家としては成功したが、私生活は悲しみに満ちていた。結婚し子どもができたが、すぐに子どもは亡くなり、妻は精神を病み、その後 Henry Clay Work は放浪を繰り返す。また、Henry Clay Work の父は、第 16 代アメリカ大統領となった Abraham Lincoln とともに奴隷制度廃止を訴えた奴隷解放活動家で、黒人との交流があり、Henry Clay Work はその黒人たちから、黒人霊歌の影響を受けている。「平井堅 楽園の彼方にーアメリカ・大きな古時計を探して」の中で、Henry Clay Work の出生記録がある South Church の音楽監督でもあり地元の大学の音楽教授である Neely Bruce は、「Henry Clay Work は、素晴らしい作曲家だ。彼はとても悲しい人生を歩んだ。深い悲しみを背負った音楽家だ。彼は悲しく作ろうとして悲しい曲を書いたのではない。彼の悲しみはもっと根源的なところから生まれていたのだ。それが音楽にとっても的確に表現されている。」と述べている。

このように、ただ英語の歌詞を学ぶだけではなく、"Grandfather's Clock" の背景も学んでいる。

また、英語と日本語の歌詞の違いも指摘している。"Grandfather's Clock" は "died" "dead" という言葉が頻繁に出てくる。"Grandfather's Clock" では、"When the old man died" (三省堂編修所 2001: 22) という歌詞が合計 5 回も使われ、真夜中を表す単語もあえて "the dead of the night" (三省堂編修所 2001: 22) を使用している。日本の歌詞で、「死」という言葉は

なく、おじいさんが死ぬことを表す歌詞も「お別れのときがきた」というように、オブラートに包み表現している。これは、日本語に訳する際、このような表現にしたと思われるが、国民性の違いを表しているようで興味深いという点も学生に指摘している。

学生のほとんどは "Grandfather's Clock" が日本の歌と認識しており、アメリカにモデルとなった時計が現在も存在することに非常に驚くのである。

### 3-5. 絵本作成

英語の絵本の作成は、*Little Blue and Little Yellow* を読み終えたあたりから、徐々に取り組む。絵本作成は一人で行ってもよいし、グループで取り組んでもよいことにしている。どちらにもメリット、デメリット両方あるので、どちらで取り組んでもよいことにしている。グループで取り組むと大作に取り組みやすいが、方向性が定まらず、なかなか進まないグループも見受けられることもある。一人で行う際は、作業量は多くなるが、自分の作りたい絵本を作ることができる。

ストーリーも学生に徐々に考えてもらい、ストーリーができたなら、それを英語にする作業を行ってもらおう。

### 4. 終わりに

以上のような取り組み、*Little Blue and Little Yellow* を読むことで reading の力を、絵本のストーリーを自分で考え英語にすることで writing の力を、"Grandfather's Clock" や英語の手遊びで listening の力を、幼稚園、保育園で使用する会話を学ぶ、作成した英語の絵本を発表を行うことで speaking の力を主につけることを目標としている。幼児教育の専門に近い内容を行うことによって、学生が主体的に英語学習に取り組むよう働きかけ、英語の技能を高めることができるよう取り組んでいる。幼児教育学科の専門科目に近い内容で、幼稚園、保育園、こども園で勤務する際に役立つ英語内容を組み込むことで、学生の反応は良いように思われる。今後も、幼稚園、保育園、こども園で勤務する際に役立ち、学生が関心を持ち、主体的に英語学習に取り組む内容となるよう授業改善に取り組んでいきたいと考えている。

#### <注>

- 1) 文部科学省「新学習指導要領」(www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/new-cs/1383986.htm、2017年9月1日)
- 2) 鯨坂はるよ (2016)「大阪の短期大学の英語教育と学生充足率について」『大阪千代田短期大学 紀要』

<引用文献>

- Leo Lionni (1995) *Little Blue and Little Yellow* A Mulberry Book  
松岡希代子 (2013) 『レオ・レオーニ 希望の絵本をつくる人』美術出版社  
松居直 (2001) 『絵本の森へ』日本エディタースクール出版部  
三省堂編修所 (編) (2001) 『英語 うたの絵じてん』三省堂  
白川真理子 (編) (2001) 『うたおう！マザーグース 下』アルク

<参考文献>

- Leo Lionni (1963) *Swimmy* A Borzoi Book  
レオ・レオーニ 藤田圭雄 (訳) (1999) 『あおくときいろちゃん』至光社